

# 会員だより

7月号の「表紙」は、全国有数の急流河川の常願寺川で貯砂や土砂の調節を行う本宮堰堤と副堰堤群でした。とても美しい自然風景の写真となっており、心が癒されます。  
匿名希望（市町村勤務、47）

7月号の「特集」は「インフラの魅力が伝わる広報へ」でした。一般の方に公共事業を理解していただくにはPRが重要ですが、どんな内容をどう伝えればいいのかは非常に難しいと思います。7月号ではそれぞれの地域で取り組んでいる先進的な事例が紹介されていて参考になりました。  
匿名希望（都道府県勤務、54）

7月号の「特集」の「音が伝える！ひとが伝える！下水道の魅力」は、下水道のイメージをポジティブに受け止めてもらえるような取組で非常に良いと思いました。当市でも参考に取り組んでいけたらと思います。  
匿名希望（市町村勤務、30）

7月号の「特集」の「ドローン撮影動画等を映像素材として提供することとした報道案内」を読みました。これまでの行政の広報では映像を録画・編集しマスコミに提供していましたが、この事例ではドローンを使ってリアルタイムの映像を提供するとともに、その提供の仕方が工夫されており、画期的な広報手法だと思いました。  
匿名希望（元地方整備局勤務、63）

7月号の「諸外国のインフラ情報」の「米国におけるインフラ投資について」が興味深かったです。世界の主要国のインフラ投資と財政事情に関して、直近の状況や近年の動向、歴史も踏まえた記事を楽しみにしています。  
匿名希望（地方整備局勤務、30）

連載されている「基礎から学ぶインフラ講座」の7月号は街路事業でした。初歩から解説されており、改めて街路について学ぶことができました。  
匿名希望（都道府県勤務、46）

7月号の「寄稿」の「迅速な災害復旧に向けて」では、令和2年7月豪雨等を受けて策定された「国土交通省直轄事業における災害発生時の入札・契約等に関する対応マニュアル」や「災害復旧の入札契約方式適用ガイドライン」の改定の要点がわかりやすく解説されており、地方自治体にも大変参考となる内容でした。  
匿名希望（都道府県勤務、46）

7月号の「新技術レポート」の「山間部での小規模土工におけるICT活用」を読みました。当県においても、山間部の小規模工事におけるICT技術の活用が課題になっています。当記事は施工者がICT施工に主体的に取り組んだ内容が具体的に紹介されており、とても興味深く読ませていただきました。  
川口滑也（奈良県勤務、54）

「会計検査情報」を毎回興味深く拝読しています。7月号に掲載されていた河床の吸出しのメカニズムは、喫緊の課題になっている橋の維持管理・補修にも応用出来る内容で、自分の職務とマッチして大変参考になりました。  
吉田大展（各務原市勤務、37）

7月号の「建設技術者のためのこの1冊」で紹介されていた「大暴落ガラ」を読みました。人は目の前に危機が現れないと、なかなか現実のものとして受け止めることは難しい。そのような人の心理を丁寧に描いている作品だと感じました。  
匿名希望（市町村勤務、58）

8月号の「特集」は「令和2年度表彰」でした。全国の技術者が熱意を持って様々な困難を乗り越え、創意工夫を行い、日本の国土のために様々な事業を完成させていることに頼もしさを感じました。私もいつか受賞できるように日々努力していきたいと思います。  
匿名希望（地方整備局勤務、41）

全建賞を受賞された方々、本当におめでとうございます。受賞された事業それぞれに評価されるべきポイントが文中に示されており、いちいち納得させられました。インフラの整備、復旧工事などのハード事業だけでなく、安全・安心、広報活動なども受賞されており、多様性が必要とされている現代において、懐の広い審査が行われていると感じました。  
匿名希望（市町村勤務、52）

8月号の大石会長の「上徳不徳」では、自国通貨建ての国債発行の国が財政破綻したことは世界的にも歴史的にも一例もないことなどが書かれていました。建設国債の意義と社会資本整備を担う者としての責務を改めて自覚しました。通常のニュースでは示されない見解であり、とても参考になります。  
匿名希望（都道府県勤務、56）

「技術資格試験合格体験記」は、試験の傾向と対策だけでなく、苦しみながらも資格を取得した達成感、自分の成長と自信に繋がったことなどが書かれていて、これから技術資格の取得を目指す会員にとって励みになると思います。  
匿名希望（元都道府県勤務、60）

賠償責任保険には加入した方が良いと勧められていましたが、どのような場合に該当するのかを理解していませんでした。連載されている「公務員技術者の訴訟リスク」では、想定される事例などがわかりやすく解説されていると思います。  
匿名希望（地方整備局勤務、43）

新人や若手職員への研修講師を行う機会が増えており、話す内容に困ることがあります。「事例から学ぶ現場力の向上」は内容もシンプルで分かりやすく、解説図もあるため、研修ネタを考える際に大変参考になります。  
匿名希望（都道府県勤務、39）

定年退職し、関連会社で第二の人生を送ることになった60歳の新社員です。全建会員を継続し、月刊「建設」を楽しく読ませていただきながら、会員のためになる情報や面白いネタなどあれば投稿していきたいです。  
匿名希望（元高速道路会社勤務、60）

現在、私は管理職の立場ですが、月刊「建設」には、大石会長の「上徳不徳」や日本大学の木下教授による「諸外国のインフラ情報」等が掲載されており、今後の政策を考えるうえで非常に参考になります。引き続きこうした新たな視点を与えてくれる記事を期待しています。  
武藤真（東京都勤務、48）

## 「会員だより」の投稿を募集

月刊「建設」に関する意見・感想・要望、その他の全建活動（建設技術講習会、伝承プロジェクト、公務員賠償責任保険等）に関する意見・感想・要望、業務上の悩み等をお寄せください。お寄せいただいた意見等は、今後の編集等の参考にさせていただきます。月刊「建設」の「会員だより」に掲載させていただいた場合は、クオカードを進呈いたします。詳細は全建HP上のバナーをクリックするか、下記のQRコードを読み取ってください。たくさんのご応募をお待ちしております。

一般社団法人全日本建設技術協会 事業課 峯脇・中嶋  
TEL : 03-3585-4546 / E-mail : kensetsu@zenken.com

